

平成22年度 事務事業評価シート（平成21年度実績分）

事務事業名	子ども科学図書館事業費		部課コード	2010	予算事業科目	011007030134	事	単	区分	継続	
所管部署	担当部局	教育委員会	部局長名(2次評価者)	松原和廣		個別事務	全部	011007030134	-		
	担当部署	市民図書館	所属長名(1次評価者)	筒井秀一							
	電話番号	088-823-9451	E-mail	kc-201000@city.kochi.lg.jp							

1 事業の位置付け

予算科目(平成21年度)	高知市総合計画・実施計画施策体系での位置付け				
会計	01 一般会計	目標	02 日いきいきと輝き安心して暮らせる都市		政策基本方針 すべての市民が健康で文化的な生活を送れるように、生きがいを育む生涯学習・スポーツへの参加を促進するとともに、生涯にわたる一貫した心身の健康づくりに取り組みます。
款	10 教育費	政策	02 生きがい輝く生涯学習・スポーツの環境づくり		
項	07 社会教育費	施策	01 生涯学習活動の支援		
目	03 図書館費	区分	02 図書館		

2 事業の根拠

法律・政令・省令		法定受託事務
県条例・規則・要綱等		
市条例・規則・要綱等		
その他(計画、覚書等)	高知市子ども科学図書館運営委員会規約	

3 事業の目的・内容等

対象	誰(何)を対象に	小中学生とその保護者		
意図	どのような状態にしていくのか	21世紀を担う子どもたちが自然を豊かにとらえるための科学学習の基地とする。		
手段	事業実施体制等	高知市教育研究会理科部会を母体とした高知市子ども科学図書館運営委員会	事業開始年度	昭和56年度
			事業終了年度	
活動内容	どのような事業活動を行うのか	子ども科学教室、親子科学教室		
成果指標	事業目的の成果を測る指標		指標設定の考え方	
	A	入館者数	科学図書館への入館者数により、どれだけ利用されたかの一定の評価ができる。	
	B	教室の開催回数と参加者数	各科学教室の開催回数と参加者数により、どれだけ利用されたかの一定の評価ができる。	
	C			

4 事業の実績等

			19年度(実績)	20年度(実績)	21年度(実績)	22年度(計画)	備考欄		
成果指標	A	入館者数	目標				18年度入館者数6,637人 開催回数と参加者数44回 973人。 20年度から、臨時職員雇用をやめ、委託費の中で事務の方を継続雇用し始めてか 館者数等が多くなり、活動は活発化している。		
		実績		9,423人	11,072人	10,427人			
	B	教室の開催回数と参加者数	目標						
実績		40回 1,011人	48回 1,534人	46回 1,433人					
C		目標							
	実績								
投入コスト	① 事業費	決算額 (千円)		5,411	4,352	4,989	5,800	科学図書館指導員として、委託費の中で配分されている。	
		財源内訳	国費 (千円)						
			県費 (千円)						
			市債 (千円)						
			その他 (千円)						
			一般財源 (千円)	5,411	4,352	4,989	5,800		
	翌年度への繰越額 (千円)								
	② 概算人件費等	人件費等 (千円)		75	75	75	75		
		正規職員 (千円)		75	75	75	75		
		その他 (千円)							
		人役数 (人)		0.01	0.01	0.01	0.01		
正規職員 (人)			0.01	0.01	0.01	0.01			
	その他 (人)								
	総コスト= ① + ② (千円)		5,486	4,427	5,064	5,875			
	市民1人当たりコスト (円)		16	13	15	総コスト/年度末人口			
	年度末住民基本台帳人数 (人)		341,544	340,695	339,714				

5 成果指標で表せない事業成果・市民満足度・その他課題点等

昭和56年にオープンした頃は、新築の潮江市民図書館併設の、全国初の「子ども科学図書館」として大好評だったが、その後各地に大型の子ども科学館ができ、今では学校の理科室より貧弱と言われる。退職した理科の先生方が、お金をかけずに工夫して科学教室を開催していることに、感謝と感動を覚え、これ自体は参加している子どもたちにも満足感はあると思うが、何分すべての実験器具も30年過ぎて老朽化して使えなくなっており、他県の子どもたちから比べて、高知市の子どもは不利であると指摘されることに対して反論できない状況となっている。

6 1次評価（所属長評価）

評価日（平成 22 年 9 月 4 日）

評価項目		評価基準	1次	平均 点数	評価内容の説明
事業実施の必要性	① 事業の実施が市の総合計画・実施計画・市長マニフェスト等の目標達成に結びつくか、又は、事業の根拠等に結びつくか	A (5) 結びつく B (3) 一部結びつく C (1) あまり結びつかない D (0) 結びつかない	A	5.0	①については図書館事業の1つであり、子どもの健全育成にはかかせないものであり、総合計画等にもずびついている。②については、時々投書にも載るが、宇宙へ向かう時代、子どもの科学の目を育てるべきとの市民ニーズはますます高まろうとしている。
	② 事業の実施に対する市民のニーズ（需要量）の傾向はどうか	A (5) 非常に多い、急増している B (3) 横ばいである C (1) 少ない、減少している D (0) ほとんどない	A		
事業内容の有効性	③ 事業の成果指標の達成状況は順調か	A (5) 十分に達成している B (3) 概ね達成している C (1) あまり順調ではない D (0) 十分な成果を望めない	B	3.0	③④についての、各教室の成果達成状況、手法・活動内容の妥当性等は、限られた条件の中で十分できているが、何分実験器具も材料費も十分でない中の為、Bとしている。
	④ 事業成果の向上のための手法・活動内容の妥当性	A (5) 妥当である B (3) 概ね妥当である C (1) 検討の余地がある D (0) 見直しが必要である	B		
事業実施の効率性	⑤ 事業の実施にかかる民間活力利用の可能性	A (5) 実施済・できない B (3) 行政主体が望ましい C (1) 検討の余地はある D (0) 十分可能である	A	5.0	昭和56年にオープンした時から、高知市子ども科学図書館運営委員会に業務委託しており、別に臨時職員がいた形も改め、人件費に係ることは全面委託としている。他に類似事業はなく、高知市教育研究会理科部会を母体とした今の形がベストと考える。
	⑥ 類似事業との統合・連携やコスト削減の可能性	A (5) 現状が望ましい・できない B (3) 概ね効率的にできている C (1) 検討の余地がある D (0) 十分可能である	A		
事業実施の公平性	⑦ 事業の受益者が特定の個人（団体）等に偏りがなく公平性が保たれているか	A (5) 極めて公平性が高い B (3) 概ね保たれている C (1) 偏っている D (0) 公平性を欠いている	A	5.0	市内唯一の子ども科学図書館として、市内全小中学校に事業は知らせているし、野外活動の保険料は参加している子どもの自己負担としている。
	⑧ 事業実施の財源として、受益者負担割合（一般財源負担割合）は妥当か。補助金等交付事業の場合、対象経費は妥当か。	A (5) 適正な負担割合である B (3) 概ね適正な負担割合である C (1) 検討の余地がある D (0) 検討すべきである	A		
総合点	18.0	○ A 事業継続 (総合点が16点以上で、各項目の平均点数がいずれも2点を超える場合) B 経費削減に努め事業継続 (総合点が12点以上16点未満で、各項目の平均点数がいずれも2点を超える場合) C 事業縮小・再構築の検討 (総合点が4点以上12点未満 又は 各項目の平均点数のいずれかで2点以下がある場合) D 事業廃止・凍結の検討 (総合点が4点未満 又は 各項目の平均点数のいずれかで1点以下がある場合)			

7 2次評価（部局長評価）

評価日（平成 22 年 9 月 28 日）

総合評価	評価理由・今後の方向性等
○ A 事業継続	1次評価のとおり、理科教育振興の観点からも継続
B 経費削減に努め事業継続	
C 事業縮小・再構築の検討	
D 事業廃止・凍結の検討	

8 特記事項